

東京の教育

復刊第十八号 東京都教師会発行

(事務局) 横浜市中区茅ヶ崎南四ノ十四ノ一ノ三〇

に馬鹿げた内容である。

ついに来たか、

女性週刊誌の洗脳記事

空花正人

「愛子天皇」実現への道 「女性天皇」丸わかり読本

これは光文社の『女性自身』(令和二年一月二十八日発売)の広告文、見出しである。

ページをめくると、プリンセスの天才素顔から皇位継承のQ&Aまで、四月検討開始の女性天皇問題が丸わかり!、徹底検証「愛子天皇」が日本を変える! の文字が躍る。

八ページにわたる綴じ込み付録の扇情的な見出しが如実に表していることが、日本をダメにする「愛子天皇実現への道」である。専門家による徹底解説というが、取材した対象が、歴史学者・小田部雄次静岡福祉大学名誉教授であり、漫画家・小林よしのりや社会学・ジェンダー研究者・牟田和恵である。読む前から方向性は決まっているうえに、自社の読者アンケートでは「愛子天皇」待望論が八割もあった、と誘導する。女性天皇や女系天皇の違いが半数以上も理解していないという昨年十一月の産経・FNN合同世論調査への対抗なのか、歴史学者の解説を掲げたが、実

『女性自身』が取材した、歴史学者・小田

部雄次静岡福祉大学名誉教授の説明の骨子は下記五項目であるが、愛子(女性)天皇擁立を目論む人々は、不都合な事実には目をつぶり触れないようにしている。よく聞く主張も含めそれらを一つ一つ論破していこう。

1. 女性天皇は過去八人存在した、日本の伝統である。ゆえにこれからもあっておかしくない。

反論…女性天皇が八方十代存在したことは事実だが、それらはすべて中継ぎか特例である。江戸時代の後桜町天皇まで存在した女性天皇ではあるが、明治になって皇室典範を制定する際、近代国家のモデルとしてヨーロッパの王朝にもある女王を意識し大いに論議した結論は、日本の女性天皇の即位はいわば緊急避難であって、生涯独身で通されたかあるいは即位後はお子をもうけられなかった事実在即し、女性の生き方を守るためにも女性が皇位につくことを規定しなかったのである。日本の女性天皇はあくまでも中継ぎであることとを隠してはいけない。ましてや日本の伝統であると言うことは論外である。愛子天皇擁立論はそのことには一切触れようとしない。

また女性宮家の創設でもないのではないかという意見もあるが、天皇の公務は女性皇族方には代行できない。旧宮家の復活があれば、それは紛れも無く立派な宮家であり、女性皇族は同時に確保できるのである。

2. 女系天皇は前例がないとされているが、母から娘への「女系継承」はあった。

反論…女系天皇とは父方を遡っても天皇にながらない天皇を示す。ゆえに我が国には明らかに存在していない。母から娘への皇位継承があったではないかとして挙げる事例は、第四十三代元明天皇から第四十四代元正天皇のことらしいが、何れも配偶者は神武天皇の血筋を引く男性でありこの二方は何れも男系天皇である。皇統とは血筋のことであり、皇位の継承そのものではない。特異的な事例の母から娘への「皇位」継承を「女系継承」と言うのは、あたかも女系天皇の成立であると錯覚させているデマである。

3. 女性天皇を禁じている皇室典範は、男尊女卑の意識による。それは人権無視である。

反論…明治の典範においては、生涯独身を貫かねばならない女性の立場を慮り、あえて女帝を規定しなかったものであって、男女差別や男尊女卑の考えによるものではない。女性には民間人であっても嫁して皇族になれるが、素性の知れない一般男性は逆立ちしても皇族になれない。そのため、女王や内親王が民間

人と結婚する場合は、臣籍降嫁といって皇族から離脱することになる。女性天皇の配偶者が皇統に属する者でなければ、王朝交代を招いてしまう危険がある。口では皇位の安定的継承などというが、寧ろ皇室破壊の引き金となっているのだ。端的な事例として称徳天皇のときの弓削道鏡を想起すべきである。明治以来の皇室典範は、皇統の乱れとなる要因を予め排除するために女帝を置かなかった、これは近代合理主義や人権思想を越えた伝統の賜物、日本人の知恵と評価すべきものである。古代はともかくも、現代における女性天皇は、天皇固有のお務めに加え、女性として皇后の役割も兼ねるようになり、精神的、生理的限界を越える激務であろう。

4. 皇族減少の危機は側室を認めなくなったからだ。男系による皇位継承は側室のおかげだ。

反論…昔は幼子の寿命が短く世継ぎ対策は大問題であったため、側室は機能した。しかし昭和天皇の御世になって一夫一婦制を堅持され、敗戦後は占領政策すなわち皇族を財閥に見立てた兵糧攻めにより世襲官家を解体してしまったことで、わずかな直宮に男子の数が確保できず、悠仁親王殿下の同世代皇族が無くなるという危機が生じたのである。今の皇室の危機とは旧官家が継続していたら発生し得なかった。

ゆえに、無理やり皇籍を剥奪された旧官家

に家族そっくり復帰いただくか、旧官家のご家族の若い男子を現官家の養子（孫養子、婿養子、夫婦養子など形態は多様である）として迎えるかの方策が順当である。

5. 男系男子より重要な天皇の条件は、生まれながらの皇族であり、天皇の子として生まれ、生まれたときから皇室で育ってきたということ。したがって旧皇族ではダメである。

反論…直系継承が難しい場合には傍系継承によつて、これまで継体天皇の事例初め、数回の男系男子継承の危機を乗り越えてきた事実がある。現皇室もその点では傍系の閑院宮系である。所謂十一官家（旧皇族）とは、元は伏見宮系といわれるが明治時代に更に分流がつくられ、戦後一時期まで皇室の藩屏として存在した。旧皇族というのは、万一皇室に皇位継承の危機が生じた場合に備えるいわば血筋の伴走者であつて、出番のないことが幸いなことであるが、今日の危機にはぜひとも存在意義を発揮していただく必要がある。旧官家の皇籍復帰は、皇位継承者の確保ばかりか女性皇族の確保でもある。そうなれば悠仁親王殿下のお妃となる方は、たった一人で男子を産まねばならないという強迫観念から解放されるのである。（令和2年1月28日 会員）

神々の笑ひ

佐藤 健二

武漢ウイルスによる外出自粛が続いてゐ

る。現役諸氏とは違って無職の身ゆゑ、もとも時間はあつたが、研究会や友人との付き合いが出来なくなった分、余計に時間はある。心がけてゐるのは家に居ることによる体力の低下から身を守ること。体力の維持は、免疫力を高めることにも繋がるさうだ。欧米型のロックダウンでないで、近くの公園などに出ることは何ら問題ではない。そこで私は毎日一万歩以上のウォーキングに励んでゐる。励みすぎて、左足ふくらはぎを痛めて、今日はいくしてパソコンに向かつてゐる。

自宅に居る時間が増えた余得は、読書が増えたこと。その余得に与つてゐる方は大勢ゐる筈。今日も知人の編集者から頂いたばかりの『熊野から読み解く記紀神話』（扶桑社新書）を読みながら、そこに記されてゐたアマテラスの石屋戸隠りの話から面白いことに気付き、一人はくそ笑んだ。

ご存じの通り、アマテラスがスサノヲの乱暴により石屋戸に隠れたために世界は暗黒に包まれた。そして万の妖（わさひひ）が世を覆った。八百万の神々は集まり、どうしたら大神を石屋戸からお出しすることができるか相談した。決め手は、アメノウズメが神懸かりして「胸乳をかき出で裳（も）ひもをホトに押し垂れ」ての怪しげな踊りであつた。「ここに高天の原動（もと）みて、八百万の神共に咲（さ）ひき」。そこに集まつてゐた神々は、皆で大笑ひをしたので、その笑ひ声で高天の原全体がどよめいたといふのである。アメノウズメはアマテラスに告げ

て言ふ。「汝命に益して貴き神坐す。故、歡喜び咲ひ樂ぶぞ」。この後の展開は「存じの通りで、再びこの世はアマテラスの光に包まれ、万の妖も去ったのである」。

ここで私の妄想をかき立てたのは、大神御出現のきっかけとなった「神々の笑ひ」である。最新医学でも、笑ひと免疫力との関係は、科学的に証明されてゐる。この分野では日本の研究は最先端を行つてゐる。笑ひで博士号をとつたのは日本人が最初ださうだ。詳しくは筑波大學名誉教授村上和雄氏の『笑う！遺伝子笑つて、健康遺伝子スイッチオン！』が教へてくれる。

日本人は、神代から笑ふことが大好きな民族であつた。そして笑ふ門には福来るの生き方を実践してゐた。武漢発のコロナウイルスの災厄を、我々は笑ひで祓ひ除くことができるのではないか。愚妻は落語が大好きで、CDで落語を聞いては一人で笑つてゐる。確実に私より長生きしさうだ。(会員)

戦前の中学国語の教科書を読む(十二)

〔次の文章は、三矢重松編纂 島野幸次 折口信夫補訂『新制中学新國文 卷三』(現在の中学二年前期)(昭和十二年版)所収のものである。漢字、送り仮名は原文通り。読み仮名は、適宜新たに加へた。〕

我が國民性

芳賀矢一

我が日本國は、氣候は溫和である。山川は秀麗である。花・紅葉、四季折々の風景は誠に美しい。かういふ國土の住民が現生活に執着するのは當然である。四圍の風光の凡てが笑つてゐる中に、ひとり住民だけが笑はずにはゐられぬ。現世の生活を樂しむ國民が、天地・山川を愛し、自然に憧れるのも當然である。この點に於て、我々は實に天の福徳を得てゐるといつてよい。殊に日本人が花鳥風月に樂しむことは、吾人の生活の各方面に於ても見られるのである。

上代に於ける衣食住は、多くは我が國土に繁茂してゐた植物界から材料を取つた。木材で家を造り、藤・葛を以て括りつけ、櫓でしろたへ、麻であらたへを作り、草木の汁でそれを染め、蔓草を取つて襷とした。日本の女の子の着物の模様のはでやかなことは、西洋人の著書によく歎賞してあるが、日本の秋の野の景色を見れば、それよりもなほ綺麗である。それがやがて衣服にも移つて來るのである。昔のしのぶずりも、今の裾模様も、つまり同じことである。菊や櫻や梅や牡丹を大きく染め出した友禪縮緬や、襦袢の帯から下駄の鼻緒の先まで、草木の模様で飾つてある。色合の名稱も、櫻色・桃色・山吹色・栗色・葡萄色など澤山ある。中古の女裝束の櫻重ね・梅重ね・山吹重ねなども、四季折々の花に因んだのであつた。

やさしい女流のは當然ともいはずが、武士の戰爭に出立つ甲冑にも、小櫻緞・卯花緞・澤瀉緞などいふのがある。いかにも優美ではないか。また旗やさしものに、蝶や笹龍膽や澤瀉をつける。皇室の御紋も菊・桐で、徳川家のは葵である。今日の家々の定紋にも、桔梗・櫻・梅鉢・牡丹・蔦・藤・松の類が多い。

それから食物の方面でも、名稱に於て、萩の餅・牡丹餅を始として、菓子屋の目録を見れば、一層その多いことが解る。形も花木に取るのが多い。干菓子には別して多い。汁粉には十二箇月の雅名があり、酒にも櫻正宗・菊正宗がある。蓬萊の島臺は今も儀式の時に用ゐられ、魚類の料理にも植物を用ゐ、牡丹餅を贈るには重箱に南天の葉を敷く。その他庭園の構造でも、室内の裝飾・什器でも、家屋の建築でも、凡て植物を用ゐ、自然のまゝの趣味を有してゐる。

挿花の術、箱庭作り、繪畫など皆、我が國人獨得の伎倆で、特殊の發達をしてゐる。凡て花を生けるにも、これを描くにも、その生きたまゝ、自然のまゝにするのが美しいのである。枝をむしりとつて花ばかり花瓶に挿しこむのは西洋の風であるが、自然の幹枝をそのまゝに、天地の配合を宜しく現すのが、生花でも盆栽でも日本人の好みである。日本人は自然の友である。眞に自然の心を理解したものである。

我が國の文學に自然を吟詠したものが多い

ことはいふまでもない。繪畫が花鳥を以て優り、彫刻も人物よりは花鳥が多く、音楽も人聲よりは自然の音色に近いことなどを考へて見れば、我が國の文學が自然美を歌ふのを長所とすることが解る。誠に上古から近世までの歌題の大半は、花鳥風月であつた。軍記・謡曲・淨瑠璃なども、叙景の文を點綴して精采を生ずる。俳句に至つては、季のないものは句にならぬことになつてゐるのである。凡そ四季の風光は一日も我が國民の頭から離れたことがない。この四季の景色と人事とを結びつけて感ずることは、即ちあはれを知ることである。

源義家や源三位頼政や平忠度等が、日本武士として優にやさしく感じられるのは、このあはれを知るといふことがあつたからである。英雄・豪傑ばかりではない。日本人ほと國民全體にあはれを知つてゐる、即ち詩人的な國民は、恐らく世界中にまたとあるまい。歌心は誰にでもある。歌は作らぬまでも俳句を作る。上手でなくとも何人も作る。花見・遊山の時にも一興とする。春は花、秋は紅葉、詩人的國民は誠に遊事に忙しいのである。

— (國民性十論) —

(原註)

芳賀矢一 福井市の人。文學博士。國文學者。東京帝國大學名譽教授。國學院大學々長。昭和二年歿。年六十一。

櫻重ね 襲の色目の名。表は白、裏は赤。女房のは上に白を重ね、下に紫を用ゐた。

冬から春にかけて着用する。

梅重ね 表は濃い紅、裏は紅梅。十一月から翌年二月までの用。

山吹重ね 表は薄朽葉、裏は黃色。女房のは、上から下まで山吹色を重ね、單を青くする。

小櫻絨 小櫻革(地を藍染にして白い小櫻の花形を染めだした革)を細く裁つて絨した鎧。



卯花絨 全體、白絲で絨したもの。澤潟絨 種々の色絲で上を狭く下を廣く、おもだかの葉の形に絨したもの。

(編輯補註)

繻珍 繻子の地に浮織りや斜文織りの文様を織り出したもの。

日本教師会教育研究大会について

本年度(令和2年度)の大会は今年十二月の予定でしたが、武漢ウィルスによる危機によつて学校教育が混乱していることなどから、来年度以降に延期という見通しになりました。なお、紀要「日本の教育」は代替論集として発行される予定ですので、原稿のご準備をお願いします。

□ 短信寸評 □

この度の武漢から拡大した新型感染症による世界的な非常事態は、様々なものの正体を改めて暴露した。近隣諸国の「火事場泥棒」

と言ふべき暴挙。マスコミによる偏向報道。政治家らの思ひ付き発言。一部大衆に見られる無知蒙昧の行動。等々。

終熄後にはこのことを、我が國のみならず全世界を挙げてきちんと検証しておかねばならない。

お願い

一、会費納入

年額 二千元

口座 「みずほ銀行」 港北ニュータウン支店

店番号 743 普通預金 1330150

名義 佐藤健二

二、原稿募集

「東京の教育」への会員の皆様のご投稿をお待ちしています。

字数は三千字程度以内でお願いします。ただしこれより長いものは数次に分けて掲載することもできます。

仮名遣いは古典現代いづれかに統一して下さい。また、写真や図版はご相談ください。

送り先は題字下にあります。また、メールの送り先は次の通りです。

事務局アドレス(佐藤)

komasato@juno.ocn.ne.jp

今号は武漢ウィルス感染症による社会混乱の為もあり、発行がこの時期になりました。ご了承ください。